

The

TOKUYA TIMES

とくや
タイムズ自民党
豊橋市議団
個人版

New

http://itotokuya.com/

伊藤 とくや

Winter, 2022-23, vol.64

急げ！ 有害鳥獣・危険動物への対応

様々な産業に影響を及ぼす観光振興

第64号 ごあいさつ

令和4年度12月議会の一般質問は、

『本市における有害鳥獣・危険動物への対応について』

- ① 農業地域における有害鳥獣の発生・被害状況確認と対応
- ② 住宅地域における危険動物の発生・被害状況確認と対応
- ③ 豊橋市危険動物出没時対応マニュアル策定の経緯と目的
- ④ マニュアル活用における課題
- ⑤ 課題に対する対応と、その後の展望…

● デジタル技術の活用、近隣自治体との情報共有は不可欠！

『本市の様々な分野の産業に影響を及ぼす観光振興の認識と対応について』

- ① コロナ後の観光振興の方向性と取組
- ② NHK大河ドラマ「どうする家康」を活用した観光振興の取組
- ③ 「どうする家康」観光スポット吉田城と豊橋公園の名称変更
- ④ インバウンド再開に合わせた観光振興の取組…

● 大河ドラマに合わせて積極的な観光振興に取り組むのか？

● 新型コロナ始め感染症対策を施しての観光再興など、インバウンドも含めアクセルとブレーキを駆使した対応は気がかりです。



マニュアル活用における課題について

答弁 ● マニュアルの策定により、関係部署の役割分担ならびに情報伝達網等の整備をしましたが、危険動物遭遇時の被害回避方法や対応窓口情報等、**人的被害発生予防に重要な情報についてさらなる周知、啓発が必要**です。

● 危険動物出現時には、**迅速、適切な対応を可能とする追い払いや捕獲の方法に関する情報収集**、さらに、**危険動物の市域を跨ぐ逸走・侵入に備え、自治体間での情報共有の確立も必要**です。

課題に対する対応と、その後の展望について

■ 愛知県はシカ急増を受け、「**ニホンジカによる森林被害の防除手法の開発**」や、「**獣害対策支援システム**」など、現在のシカの分布地域、被害情報が把握可能であり、**本市の民間事業者も技術協力しているなど、極めて注視すべき**です。

■ 駆除依頼の対応としては、地域の**猟友会**へ、会員を維持する、若返りを図ることを支援する自治体も多いことから、**広域狩猟連合豊橋への支援とともに、新規に害獣駆除をする事業者も現れていることから業務委託も検討すべき**です。

■ イノシシについては、豊橋市内においても**北部・東部地域の全ての区域と南部の海岸地域の一部にまで及ぶ状況**です。

■ 防災危機管理課、農業支援課、学校教育課、保育課、広報広聴課、安全生活課、消防本部消防救急課、豊橋警察署地域課、動植物園、愛知県東三河総局環境保全課、環境省中部地方環境事務所野生生物課、その他、**多くの関係機関との連携**を図る

● その際は連絡のみに留まらず、最新情報の共有など、更なる、**デジタル技術の活用を図るなど必須であり、近隣自治体との情報共有も不可欠**です。

答弁 ● 危険動物遭遇時に必要な情報は、**ホームページ掲載に加え SNS の利用や広報**への掲載など様々な方法を活用することにより、世代を問わず広く市民の皆様に情報が浸透するよう周知する必要があります。

● 危険動物出現時の**追い払いや捕獲の方法**について、他自治体における実際の対応方法等の情報収集に努めると共に、**広域狩猟連合豊橋など知識を有する方々と情報共有を図り、より効果的な方法を勉強**します。

● さらに、危険動物の市域を跨ぐ逸走・侵入に備え、**自治体間で動物の出没場所や特徴等を共有するための手段に ICT を用いた DX 化も視野**に入れ、最適な方法に関する情報の入手に努めます。

● 危険動物への対応は「豊橋市危険動物出没時対応マニュアル」の策定、実施により向上したところでありますが、今後、これらの課題の解決に加え、様々な事例を処理していくことにより、更なる被害防止が可能となり、市民が安心して安全に暮らせる街づくりがより一層進むと考えます。

まとめ ■ 危険動物に対する**危機管理は 24 時間体制**であることから、国や県と連携を図る、警察と連携を深めるなど、市民が安心して安全に暮らせる街づくりを進めていただきたい。

【質問の意図】

👉 有害鳥獣とは、人畜や農作物などに被害を与える鳥獣です。

👉 危険動物とは、市民の生命、財産を亡失、又は損傷するおそれのある野生動物です。

👉 近年有害鳥獣・危険動物であるシカ、イノシシ被害は深刻化・広域化しており、この40年の生息域拡大を確認しますと、シカは約2.5倍！イノシシは約1.7倍！要因の1つは温暖化です。

■ 個別に注目しますと、

● シカはそもそも寿命が長く、メスは毎年1頭の子を産む。

● イノシシも繁殖力は高く、メスは毎年4～5頭の子を産む。

👉 深刻なイノシシ問題は、従来は生息していなかった地域に、食用用として飼育していたイノシシやイノブタが逃げた、狩猟資源育成として人為的にイノブタの放獣をしたという行為です。

👉 豚の旺盛な繁殖力が、自然界におけるイノシシ繁殖の秩序を凌駕し、個体数・生息域ともに急速に拡大しています。

● ツキノワグマも、奥三河愛知県内発見報告は毎年あります。

👉 近時で注目を集めたのは、山口市にて頻発化するサル被害で、赤ちゃんを連れ去ろうとした事件は本市でもありうる事件です。

農業地域における有害鳥獣の発生・被害状況について

住宅地域における危険動物の発生・被害状況について

答弁内容は『オンデマンド通信』『豊橋市議会議事録』を確認下さい

● 市内での有害鳥獣・危険動物被害について心配していたところ、**豊橋市は令和4年6月、近隣他市に先駆けて「危険動物出没時対応マニュアル」を策定**しました。

👉 昨今の被害を聞けば、今、そこにある危機に対して先手を打つマニュアル策定と高く評価しますが、絶えざる磨き直しが求められます。



本市の様々な分野の産業に影響を及ぼす 観光振興の認識と対応について

コロナ後の観光振興の方向性と取組について

●国は新型コロナウイルス感染者数は増加傾向がみられるが、感染拡大の防止と社会経済活動を維持しつつ、観光産業の再興を図る方針を進めている。
■国内観光需要喚起策として、「全国旅行支援」やスポーツ観戦や映画などのチケット価格を割引く「イベント割」を始めています。

答弁

●新型コロナウイルス感染症の世界的な流行後、観光では、インバウンド需要はほぼ消滅し、度重なる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による行動制限に伴い国内旅行も大きく減少しました。
●一方で第7波終息後は、感染拡大を抑制しながら生活や経済活動を行っていく動きが加速しており、本市においても、11月に3年ぶりに「炎の祭典」が豊橋球場で開催され、満席のお客様に手筒花火をお楽しみいただきました。
●しかしながら、コロナ感染拡大前とは旅行者の求めるものは変化しており、旅行者ニーズにあったイベント内容や情報発信を行う必要があります。
●こうしたことから、実施した事業の結果や国、県の統計データ、民間の調査機関が発行する意識調査の結果など、様々なデジタルデータや分析結果を利用し、最適な手法を選択し効率的、効果的な施策の推進を行っていきます。
炎の祭典の開催を通じて、アフターコロナ、ウィズコロナの旅行者の傾向についてどのような結果が得られたのかについて

答弁

■本年度の炎の祭典は、チケットの発売当初から想定を上回る応募があり、販売座席を増設して対応するなど、大変好評でした。
■来場者の特徴的な傾向は、**県外からの来場者が全体の約53%とコロナ前の約21%を大きく上回っていました。**
■背景には、感染拡大により各地の花火大会が中止となり、花火を鑑賞する機会を求める方が多くいたことや、**豊橋観光コンベンション協会がツアー造成の際に旅行会社に対して本市での宿泊を伴うことをチケット販売の条件としたため、県外からの来場者の増加につながったこと**です。
■一方で、販売されたツアーは、新幹線を利用したものやバスの乗車人数を定員の半分ほどにするなど、長時間の**三密を避ける工夫**がされていました。

NHK大河ドラマ「どうする家康」を活用した観光振興について

●いよいよ、来年1月8日からNHK大河ドラマ「どうする家康」の放送が開始されます。
●乱世ともいえる今日の世界情勢において、「何とか生き抜け」と見出しに書かれたポスターは、私たちにドラマへの関心を掻き立てています。
●本市は、家康の戦国時代をものがながら生き延びた生涯における青春時代の舞台です。
●冒頭の桶狭間の戦いから大坂夏の陣までの合戦、家康とともに奮闘する家臣団などを新たな視線で描く、**大河ドラマの舞台としてのチャンスをどの様に市政に反映させるのか？**

答弁

■本市には**吉田城**や**二川宿**などの歴史観光資源がある。
■家康観光資源には、「家康が鬼祭を見た際に腰かけた松の木跡」や、家康が当地に火薬の扱いを許可したことから盛んになった「**手筒花火**」がある。
■愛知県を始め、家康に関連が深い**浜松市**、**岡崎市**や東三河の各市町村と連携して広域的な視点で誘客を行っていきたい。

質問

東三河観光協議会による「どうする家康」の本市における観光スポットの本丸は吉田城（豊橋公園）であるが、豊橋公園の名称変更について、時間が経過しているが、**名称変更の現在の状況と、今後の進め方は？**

答弁

■6月には応募された名称案をもとに有識者からなる検討委員会を開催し、いずれも豊橋公園の豊橋という名を残しつつ、吉田城や吉田城址などと組み合わせた名称が複数案、絞り込まれました。
■さらに8月には庁内選定委員会で、絞り込んだ複数案とその選定理由、また検討委員会の中で発言のあった意見の確認などを行っています。
■現在、最終案の決定に向けて、**市民の理解を十分に得られるような名称**となるよう、丁寧に進めています。

インバウンド再開に合わせた観光振興の取組について

■新型コロナウイルスの水際対策が10月11日から大幅に緩和されました。
■ワクチン接種などの一部制限は残るものの、1日当たり5万人の入国者数の上限は撤廃、観光目的での個人旅行やビザなし入国も解禁されました。
■加えて多少の落ち着きは見せましたが、円安・ドル高水準の中での「開国」となり、インバウンド（訪日観光客）需要復活に期待が高まっています。

質問

『規制の緩和後、外国人観光客の増加は始まっていますが、現在の状況をどのように捉えているのか、また現状から分析して今後の外国人観光客の誘致についてどのように行っていくのかについて』

質問炎の祭典の開催を通じて、アフターコロナ、ウィズコロナの旅行者の傾向についてどのような結果が得られたのかについて

●Z世代・若年層へのアプローチが重要ではないか！
●人口が減っていく一方で、顧客生涯価値（ライフタイムバリュー）が高い若年層の獲得はどの業界においてもキーワード。
●若者はこの先の旅行・レジャー消費期間が長く、顧客としての価値が高く、若いうちに特定地域でのレジャー・観光体験をした層は、ゆくゆく宿泊を含めた消費をする活動的なユーザーとなり、長期かつ継続的な利用が期待される。
♡次世代を育む未来への投資は進んでいる。

『具体的な情報発信による誘客の取組が必要であると同いしましたが、インバウンドを含め本市の観光情報をどのように発信していくのかについて』

答弁

●携帯電話の位置情報サービスを介したデジタルデータや民間の調査機関が行うマーケティング調査の結果なども参考にして、発信媒体を選択したうえで、ニーズに合わせた情報を届けるなど、工夫を凝らしたい。
♡インバウンドを含め本市の観光情報をどのように発信については東三河DMO、愛知県東三河広域観光協議会と、しっかりとタッグを組んで進めていきたい♡



発行

伊藤とくや事務所
豊橋市松葉町3-70
☎090-3855-9696
FAX : 0532-53-4557
bbto@me.com

豊橋市議会のHPより、インターネット映像中継の録画がご覧いただけます。
最新の活動は伊藤とくやホームページより、フェイスブックにてご覧ください！